

挑戦と希望の地域支援・訪問看護ステーションと他機関との連携支援 振り返り

みつばち診療所 前畑 和樹

まずは、このイベントを主催して頂いた「宮崎もやいの会」小林さんに感謝申し上げます。

パート1では訪問看護の実際を映像で見ることができた。診療所として訪問看護へ指示する側にあるため、実際どのように訪問をしているのかまでは把握しておらず、知る事が出来て良かった。

宮崎市の訪問看護事業所は、R6.9.1 現在で 89 事業所。R6 年 4 月からは毎月事業所が新規設立している。それだけ需要もあると思うが、看護技術・マンパワー不足が否めない事業所がある事も事実。それぞれの事業所の特色を知ることが、指示する側として大切であり、新規受け入れをする際に大事にしている部分である。

今後も「語ルシストの会」など色々な有志の集まりで、情報共有に努めていきたい。

パート2では私自身初めてパネリストとして登壇した。訪問看護・訪問診療・居宅介護支援事業所・包括支援センター・行政のそれぞれの立場で話をした。

普段から各分野との連携を大切にすることを意識しているが、有意義なディスカッションができたと感じた。制度の狭間や法のグレーゾーンについては、行政を巻き込んでのやり取りがスムーズに出来るようになるといいなと感じた。

イベントを行うことで、今までしてきた業務を整理し、こういった思いでしているか振り返る良い機会となった。今まで連携を図ってきた人・このイベントを通じて知り合った人も含め、より一層在宅療養の場の関係者が連携を図れるように今後も真摯に取り組んでいきたい。

今後は、行政や病院関係者も含めたイベントが開催できれば、在宅療養の関係者だけでなく、地域としての医療資源の連携が図れるのではないかと感じた。